

KODAK  
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

|      |      |       |        |     |         |       |         |       |
|------|------|-------|--------|-----|---------|-------|---------|-------|
| Blue | Cyan | Green | Yellow | Red | Magenta | White | 3/Color | Black |
| A 1  | A 2  | A 3   | A 4    | A 5 | A 6     | A 7   | A 8     | A 9   |
| M 1  | M 2  | M 3   | M 4    | M 5 | M 6     | M 7   | M 8     | M 9   |
| B 1  | B 2  | B 3   | B 4    | B 5 | B 6     | B 7   | B 8     | B 9   |

筑紫紀行

五

|      |
|------|
| 1234 |
| 344  |
| 5    |



門凡呂  
號 344  
卷 5

筑後紀行卷五

四月廿七日あけ方より空晴ぬ郊刺さふく宮の宿をきく町の南  
裏へ出まバ筑後川の堤あり堤よりわけて四五丁バ渡津あり川向を  
筑後の國なり舟を乗り渡りて彼方の堤を三丁バ渡りて川底に八切石をすき  
け筑後川は流るるをわたりて流る川洞二十間計川底に八切石をすき  
るをくぬぬをくをり川を流る長野村町家三丁軒商家ありれど  
茶屋あり次小宮田村竹藪の周に住まふ家居に四五丁隔て下  
宮田村あり又十丁バ行ハ着る村片側の町より商家はは町中に  
八幡の寺社あり七八丁バ筑後の吉井町あり久米乃  
殿の由緒あり堅橋の町より人か三丁軒あり商家多く茶屋宿

○卷五

屋あり十五丁に六免の村人家十軒計あり商家茶屋あり三丁  
行ハ一里塚あり久松よりけさで道の傍小幡をせと極り屋を  
す。吉井此町を出しより右左用水すといひ清き湊川流きて  
中此境のとを道として行あり又半里に八桶に村人家二十軒計り商  
家あり茶屋六丁に六免を去る。南に六里東西八十里計  
もろ膏腴の沃田ありて粟種を多く作り麦もいとよく出来ぬや  
んゆ烟草藍ふも好くふ多くある。上田八免十三と又下田一及乃  
代六十考文計り貢田半畝井納心幡の定とある時實一斤は付くと  
納りより何程よく幡を志なり賣時幡一斤は付くと納する事何  
程よの定ありありて運ぶの如くふり二まありといひかくて半

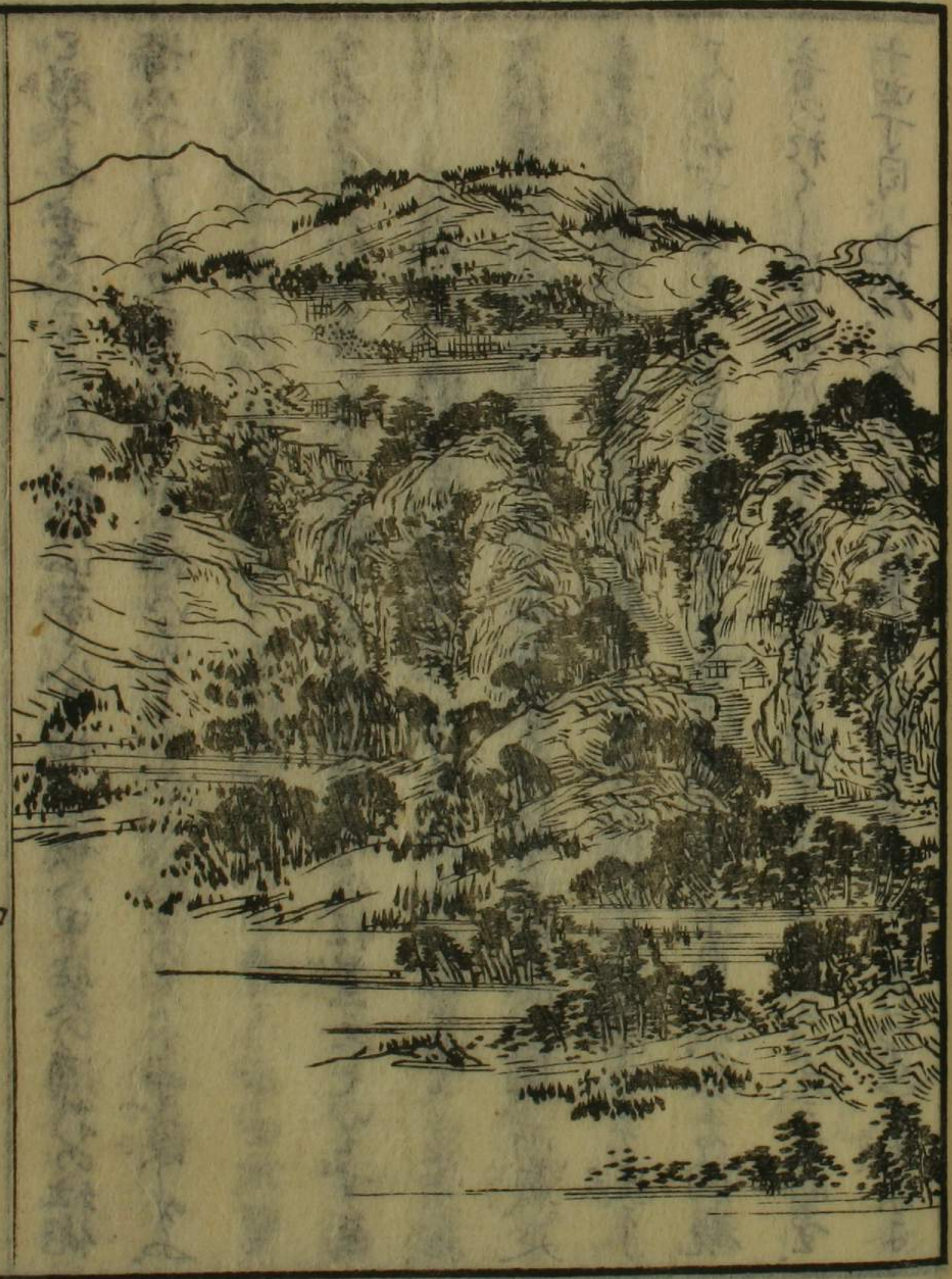
里して吉田町に至る人家三十軒商家茶屋あり二丁隔て田主  
丸町人が三十軒三丁計の程ふはとさなり商家多く茶屋十軒  
あまり宿屋も何れも賑わい半里計りばまより村ありけりり  
道の右左各一二丁を隔てて村を並び続きたり。又二丁にばまき村人  
が三十軒商家何れも茶屋あり。二十丁にバ川あり古橋  
より渡さば大橋村にて茶屋六軒あり半里餘り行ハ善導寺  
前町あり人か三十軒計り賑わふとさなり。又多く農家あり茶屋  
宿屋もあり善導寺といふまき入る系拜也。此所の本山に大門乃  
内は山門あり。法堂八十六間四方あり阿彌陀の坐像を安置する。  
寶庫 釋迦堂。三祖堂。鐘樓堂等あり。釋迦堂は祈禱乃

二字と額がくよかけたり。寺内ふたある楠の本あり。寺銘にふた石方丈八倍  
正の位ありとあり。これより三丁にハと田村茶屋休い所あり。吉井町ふ  
けもととあり。洪水みづかみの難くわんを著くむ所を。又十丁にハと茶屋一軒あり。  
家の傍かたはらに那境の印あしたり。東ハ本郡西ハ津井郡あり。けもとより南乃  
ちハ屏風やぐ。屏風とまゝなるやき山あり。十丁にハと追分村おきあり。  
町よりて人家にハと軒茶屋園あり。村を離とちきとて五丁にハと松崎  
乃の追分あり。又六丁にハと府中町ふ至まる。是こと五里。是も久留米の江鈴えいず  
人家二百軒あり。茶屋宿屋多く本陣あり。薩摩肥後等の國より  
往來の驛路あり。驛場うきまち乃前即高良山の山口あり。石の急いそ集いはし  
くあり。銅の額がくふ玉垂たま宮とあるをわけてあり。けし社ハ延喜式神名

帳ちやうふ筑後國三井郡高良玉垂命神社名神大中ありて日本後紀續日本  
後紀三代實録まことふ進階まゐの事あり。又里人ハ武内宿禰をあるといふ。  
またけ國の一乃官あり。このふを集いのころに下馬の杭か石いをままり  
入いり六丁目小道の傍かたはらに沈しづむ。池中に晴ありて。蘓鉄そてつままるやを極交ごく  
入いりある者も徳とくとて反橋をひかり。沈しづむの申まをに洗あらうす。高たか峰  
乃社あり。右のふあり。ままるふ影かげ清水しみづ水みづとて観音堂あり。かかん造ぞうよせる  
舞臺まいだい。又廊らうふとあり。石の五重ごじゆうに塔あり。左の方小櫓ころうを靈れい神しんのままり。  
ままる前まへに他人の業わざとてままるは尺しゃく許こふ八寸四方はつすん計けいある碑いしを立て。正面まへハ  
いいままよりハぬぬささともともなるん

近江栗津  
義仲寺  
室庵  
枯尾をれ

○卷五



筑前國三井郡  
高麗山之風景



○卷五  
已彫<sup>あ</sup>りて、表まらり、歌ハ出雲八重垣連歌ハ甲斐の酒折の社祀  
循<sup>し</sup>つゝ、良山桃<sup>もも</sup>靈神<sup>りょうじん</sup>いりて、永く風流のるを守護<sup>しゆご</sup>り、  
寛政五年丑十月、筑南米府、石田殘道、本田魯<sup>ろ</sup>、中田秋賀  
とあり、その舞臺より眺<sup>なが</sup>むれば、池中<sup>ちゆうぢゆう</sup>の佳景<sup>けいけい</sup>えもいらず、面  
白<sup>しろ</sup>し、系師堂、地藏堂、勢比石、法馬蹄石、観音堂、虚空蔵  
大神宮、大神宮の傍前<sup>かたがへ</sup>も、とまき、伊勢天照御祖神所<sup>いせてんしやうごそじんじよ</sup>載<sup>のり</sup>延  
喜式<sup>きしき</sup>當國大小四座之内也、彫<sup>あ</sup>りて、社も進階<sup>しんかい</sup>の事<sup>こと</sup>史<sup>し</sup>り  
又<sup>また</sup>ゆ、九丁目、善光寺如來分身<sup>ぜんくわうじにらうぶんしん</sup>像<sup>ざう</sup>、十二丁目、如來輪觀  
音<sup>にらうりんくわんおん</sup>の松、海すといたり、またの観音<sup>くわんおん</sup>と稱<sup>なづ</sup>き、十二丁目、元天師堂、  
十四丁目、地藏、不動、とくに茶屋一軒あり、是より松の本と名<sup>な</sup>あり

柱<sup>はしら</sup>り、石の五重塔<sup>ごじゆうたう</sup>をいれ、赤<sup>あか</sup>き木<sup>き</sup>の集<sup>あつ</sup>り、とて、高良玉垂  
宮<sup>たからたまたらしみや</sup>と稱<sup>なづ</sup>き、額<sup>がく</sup>をうけたり、名<sup>な</sup>集<sup>あつ</sup>り、入<sup>い</sup>り、とて、あり、とて、礎<sup>いしだい</sup>を百  
十五段<sup>じゅうごふだん</sup>のやま、本社<sup>ほんしや</sup>の、前<sup>まへ</sup>に銅<sup>どう</sup>の、水鉢<sup>みづはち</sup>、香爐<sup>かうろ</sup>、石の駒<sup>こま</sup>、大<sup>おほ</sup>い、社  
拜殿<sup>はいでん</sup>、松皮葺<sup>しょうわじ</sup>、西向<sup>さいかう</sup>、立<sup>た</sup>せあり、二股<sup>ふたまたま</sup>の松<sup>しょう</sup>、社<sup>しや</sup>木<sup>き</sup>、この、  
豊比咩<sup>ゆひな</sup>神社<sup>しんしや</sup>、社<sup>しや</sup>前<sup>まへ</sup>に石<sup>いし</sup>を、立<sup>た</sup>せ、所<sup>ところ</sup>載<sup>のり</sup>延喜式<sup>えんぎしき</sup>、筑後州大小四座之内<sup>つくごしゅうたうしよせいのうち</sup>、  
あり、たり、かくて、昆倉<sup>こんくら</sup>門<sup>かど</sup>、石<sup>いし</sup>を、いり、八<sup>はち</sup>丁目、下<sup>した</sup>ま、神<sup>かみ</sup>廟<sup>ぼう</sup>あり、末社<sup>すえしや</sup>  
す、とて、五社、鐘樓<sup>かねろう</sup>、大日堂<sup>たにちつだう</sup>を、いり、茶屋<sup>ちやうや</sup>、二軒<sup>ふたけん</sup>あり、す、とて、堂<sup>だう</sup>舎<sup>しゃ</sup>の、  
振葉<sup>ふるは</sup>好<sup>こう</sup>、よ、とて、朝<sup>あさ</sup>、一<sup>いち</sup>、とて、立<sup>た</sup>せ、あり、とて、い、とて、美<sup>み</sup>く、あり、とて、あり、  
社<sup>しや</sup>傍<sup>かたがへ</sup>を、産<sup>うぶ</sup>ま、と稱<sup>なづ</sup>き、とて、位<sup>ゐ</sup>、杖<sup>じやう</sup>傍<sup>かたがへ</sup>、寺<sup>てら</sup>、地<sup>ぢ</sup>、あり、とて、千<sup>ち</sup>石<sup>いし</sup>あり、とて、あり、  
かくて、町<sup>まち</sup>、小<sup>こ</sup>、陽<sup>やう</sup>、町<sup>まち</sup>、を、出<sup>で</sup>、離<sup>り</sup>、ま、とて、二<sup>ふた</sup>、寺<sup>てら</sup>、い、り、とて、茶<sup>ちや</sup>、屋<sup>や</sup>、あり、とて、是<sup>こゝ</sup>、より、る、の、あり、

杉を並木に植たり。十丁五丁にバ光寺あり。村中深川の所は土橋を  
うけたり。橋の側は茶屋あり。中五丁行ハ五穀乃神社あり。銅の集小  
五穀神と云ふ額を掛たり。深川親和が跡を集小五穀の築山  
根より面白くなり。七丁にて石の名集り。拜殿本社のこと  
華嚴寺あり。佛は石に坐ありて。観世音を安坐す。田山園通寺と云  
ふ。古来の僧尼と守なり。七丁にバ久留米に至り。つ  
く。中より。中務を補殿。乃は城下あり。入口より出ると三十二丁あり。  
内堀の堀のそとにて。天守やうと云ふ。八丁の入口は門の内より付  
番あり。入口より十丁の所を本町と稱す。町家の根より。多し。多くハ  
板葺あり。碓氷石を並り。そとより。石を並り。町と稱して。皆草葺也。

本町字子目の長門屋活助といふ宿あり。宿より。七丁にバ。宿舎ハ二  
軒あり。そハあり。すといふ。

○廿八日。夕刻。は宿を立ち。城下と云く。五丁にバ。繩子町と云片  
か。この町。町計あり。續いて。瀬下町と云。十町計。堀。く。打。高  
多し。茶屋あり。そと。を。二十丁にバ。筑後川に至る。川か。あり。小  
番あり。舟より。渡る。川の所あり。舟を番あり。川を。れ。肥前の水  
あり。肥前乃國。豆津町。久留米より。是と一里と。佐賀の所。多し。農あり。十軒  
計。町屋あり。び。茶屋。高あり。是より。川。堤。杉の木。多し。  
む。い。中を。十町計。り。バ。町。人家。二十軒計。糖。高。多し。  
七八丁にバ。松本村。傳。ハ。茶屋。二軒あり。の。後。の。多し。あり。



高麗鳥之圖

此鳥ハ肥前ノ国ト多ク  
尋常此鳥よりハ形チ小  
くして白キぬあり里人の  
庭樹或ハ林中ハ群集ト其  
形状ト美あり





流いて白久村あり。三丁計り。東尾村二丁計り。西尾村。人家二  
 十軒計り。南の茶屋あり。小川のあるを。かちより渡りて。十丁河あり。  
 け。中尾村にて。人家三十軒計り。茶屋もあり。村をてりる出離きて。行をて  
 高羅こうらす。すといふ。とん。相根の中程。白久あり。尾がこらく。くし  
こら子馬のあり。十三丁ありて。やう。村。人家。十軒計り。茶屋も。小川の  
 ある。とちより。渡りて。七八丁。中尾村。農家三十軒計り。あり。け  
あく。幡あを。木多し。二三丁。バ。大おの。けの。宿。の。口。は。出いて。計り。バ  
 たで。宿。人家。十軒計り。茶屋あり。出口。は。橋の。あり。と。渡りて。十町計り  
 け。バ。神あ。ふ。ま。る。人家。百軒計り。茶屋。宿屋。多し。と。旅。は。  
 佐賀の。山。越。て。六丁。バ。新。宿。と。なる。片。側。は。家。居。十軒計り。あり。

家。に。葦。を。作。り。賣。す。十丁計り。巴郡境の。あり。あり。東。八。神。崎。郡。あり。  
 佐賀。郡。と。なる。古。三。丁。バ。塚。系。ま。る。神。崎。郡。の。町。も。い。ふ。人家。百  
 軒。計り。茶。屋。宿。屋。あり。佐賀の。山。越。て。宿。の。十。町。計り。バ。ち。ち。田  
 町。茶。屋。あり。又。二丁計り。バ。松。の。下。とい。ふ。出。茶。屋。あり。七八丁。バ。尾  
 町。人家。百軒計り。あり。茶。屋。多し。六丁。りて。板。橋。の。も。せ。る。川。を。渡  
 せ。バ。佐賀の。入口。境系より佐賀 佐賀。八。平。肥。前。の。後。三十六の後。下  
 あり。入口。は。懸。門。の。付。番。所。あり。町。は。長。く。あり。草。葺。の。家。交。り。て  
 又。中。も。白。山。町。とい。ふ。町。あり。家。居。多し。津。保。八。通。筋。の。入。り。む。  
 かく。て。一。里。程。りて。津。保。下。北。西。の。口。と。出。ま。バ。長。津。町。二十町計り。は。賣  
 たり。け。月。小。宿。三。軒。あり。津。保。下。ふ。い。を。け。國。の。町。屋。も。村。も。え

るの辻ごとふ石のあはすとせりあり。豊前筑前筑後の月八折ありて。皆猿田彦此神を石と作り。又石小庚申を天を彫りて立てり。こゝ又け國の月よ通用する米札あり。

免

米何程由何の秋産物取を以て可相濟し

會西米印

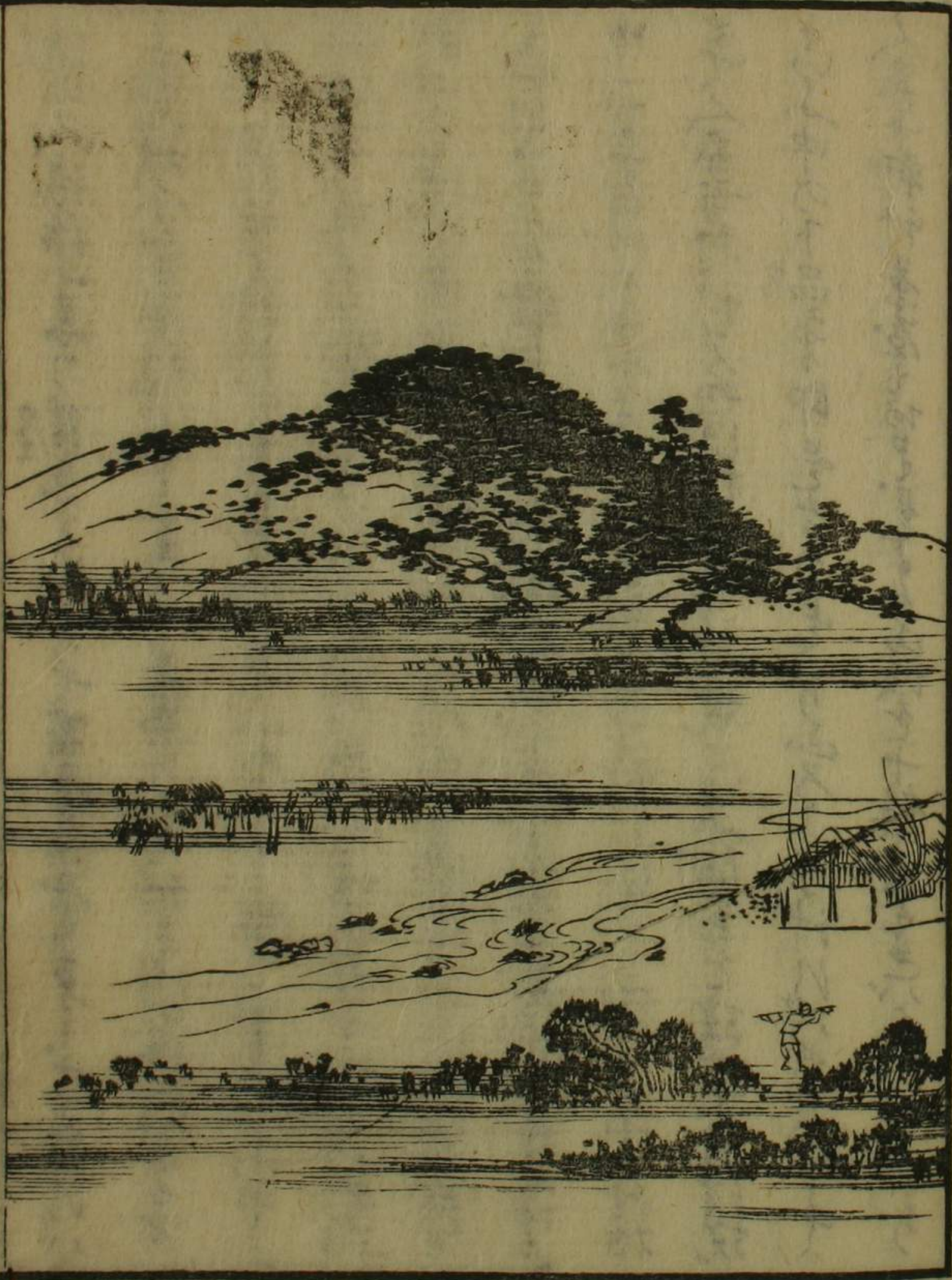
と押たるれきり。米を舟を流す又よあてて。一舟よりを石と乃れり。こゝをこえりよ六丁り。加瀬町。高が多く。米屋もあて五丁計。つらり。八丁計り。白河入。三軒計。米屋もあて。町の出口よ加瀬川。流す。潤二十四百あり。一。夜橋より流りて。こゝま宿小至。四丁計。

の町あり。米屋あり。十丁計り。久保田町。八軒計あり。米屋もあて。五丁計り。巴郡境のきり。東は佐賀郡。西は小城。こゝをたてり。又三丁計り。牛澤宿小至。佐賀より。こゝは小城の後の山あり。人が百六七十軒計。多く。艸葺あり。米屋宿あり。宿屋三。四軒の中。擇びて。米屋を。米を。あて。宿あり。家。居あり。客席。津。津あり。て。まの。つ。ら。り。こゝを。こゝ。懸。ふ。り。や。く。し。

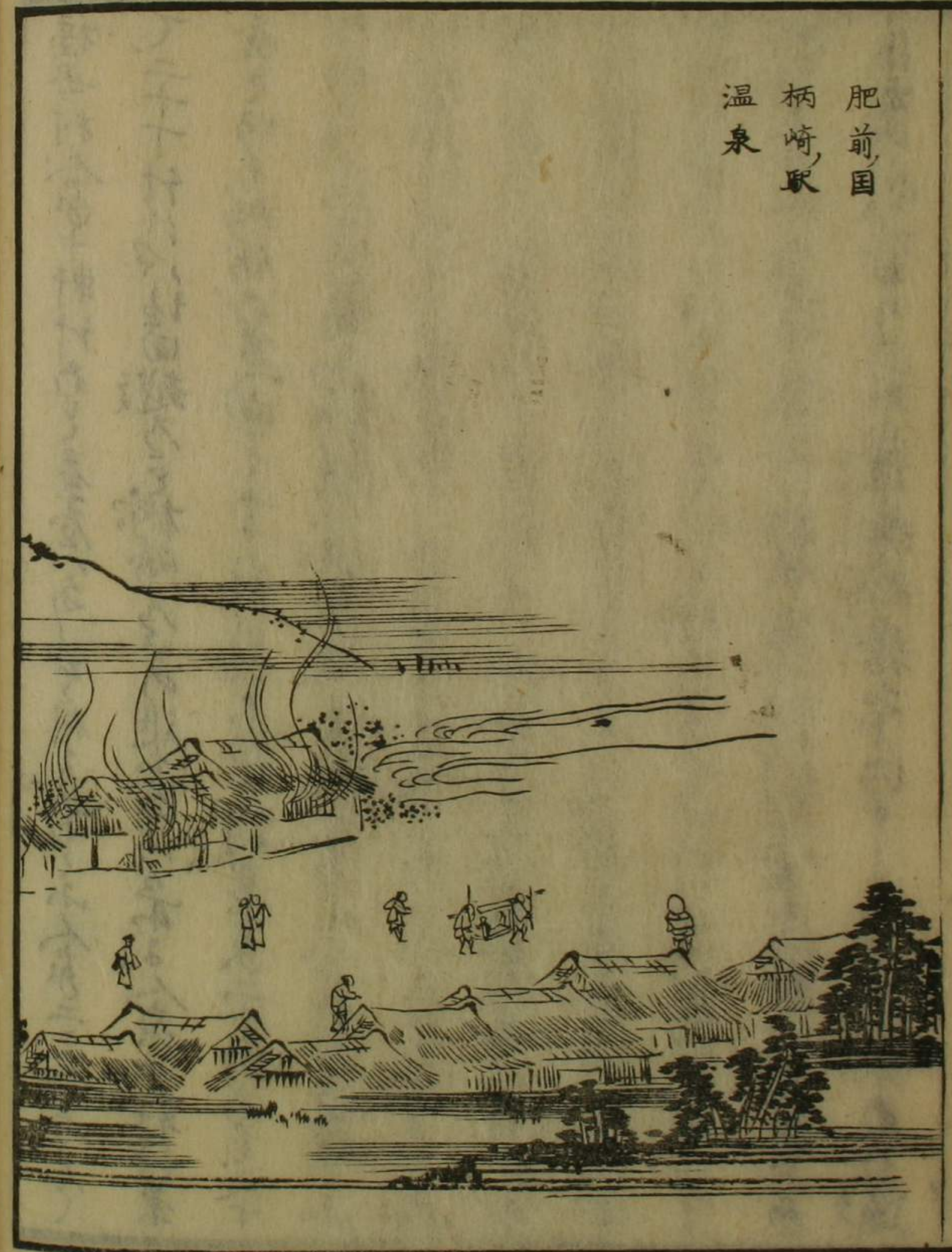
○廿九日晦。空陰。ま。り。卯。刺。さ。ま。ま。出。宿。の。出。口。よ。古。橋。を。渡。せ。る。川。を。境。と。して。川。を。渡。き。新。町。と。て。是。も。小。城。の。山。あり。家。居。三。丁。計。よ。ま。つ。き。米。屋。も。あり。け。出。口。も。又。川。を。古。橋。の。長。さ。七。八。間。あり。を。流。り。て。五。丁。計。り。砥。川。町。是。は。佐。賀。の。山。あり。町。の。長。さ。三。丁。計。米。屋。あり。町。を。離。れ。て

五丁計り、新宿村人家二十軒あり、茶屋あり。又五丁計り、八幡村人家二十軒計、茶屋あり。三丁計り、茶屋宿人家二十軒計、商あり。け入口、郡境の表たてあり、東、小塚、西、杵崎、郡とあり。十丁計り、猿宿、人家百六十軒計、茶屋あり。次、山田村に、供、十軒立、ほどきたり。茶屋あり。二十丁計り、小田の宿あり。牛津より、二里三丁 依賀乃、は、飲、寺、人家百軒計、宿あり。茶屋あり。村の出口、乃、吾、れ、乃、親、音、堂、あり。寺内、小、大、さ、ある、楠、の木、此、を、お、お、立て、立、る、其、生、木、の本、榊、の、よ、き、程、ある、木、を、削、り、て、親、音、の、像、を、彫、つ、け、た、る、あり。行、基、菩、薩、の、作、之、と、云、傳、ある、を、七、八、丁、計り、高田村、農、家、三十、軒、計、あり、茶、屋、あり。又、六、丁、計り、大町、で、商、家、造、酒、茶、屋、茶、屋、農、家、四、十、丁、計り、よ、き、つ、ま、た、り。町、を、離、れて、十、餘、町、計り、

福母村、人家十軒計あり、茶屋あり。それより、南、へ、人家三軒、つ、く、て、二十丁計り、境、田、越、る、と、柄、崎、なる、追、分、の、所、に、人家十軒計、茶、屋、あり。柄、崎、の、方、向、く、十、丁、計り、川、あり、村、農、家、二十、軒、あり。又、十、丁、計り、小、田、の、宿、小田より、二里十七丁 け、小、田、端、宿、人家七、八、軒、計、皆、農、家、小、て、宿、屋、あり、と、農、家、あ、る、の、宿、屋、を、茶、屋、あり。十三丁計り、川、あり、橋、町、あり、人家、居、る、多、く、商、家、多、く、茶、屋、あり、と、宿、屋、あり。町、の、北、に、四、丁、計り、あり、と、て、筑、前、の、久、松、を、お、お、り、け、り、と、平、乃、と、云、い、は、れ、り。是、より、又、山、の、方、向、に、初、ぬ、二十丁計り、川、原、村、人家二十軒、あり、あり。十丁、計り、柄、崎、宿、小田より、一里十三丁 人家百軒計、依、賀、の、家、は、此、の、地、に、あり、け、り、小、田、湯、瘡、疥、瘡、を、治、す、と、い、ふ、温、泉、あり、遠



肥前国  
柄崎、  
温泉



近えんの人湯治あつちみ来り集あつちる。さるによりて宿屋茶屋も多し。十丁餘はは  
と西山村人家三四軒づつありありて茶屋もあり細こい川の湯治あり  
あると飛石をほひるより流ながりて山やま十丁餘り登のぼればあのの  
碓うしみまま。碓より二十丁をこり下くだりて内田村うちの宿屋あり人家八は六  
軒あり申まふ茶屋あり。六丁は小川あり飛石をとりて假かり橋はしを  
もかけりより流ながる。三四丁は袴はかま村むら宿屋あり人家三軒づつ二軒あり  
申まふ茶屋あり。次つぎふと村又右のあり二十丁計引込ひきこむ山やまの手てあり種たね相  
とて人家百軒計あり。け村よりろ焼やきといふ陶器たぐさを焼やく。唐から焼  
といふ申まの下品くだり。即是これなり。是よりふる十丁計はは長なが村むらにて  
人家十軒計茶屋もあり。是より山坂やまのを十餘丁をこりて坂さか峠とうげより

二十丁計下くだりて地ち回越まわりて柄崎へらなるもの近ちかかり。次つぎ下宿人家三丁計あり  
と申まふ。さる。皆みな農家いんげにて茶屋をなす。十丁計はは姥おば宿やど。柄崎は  
里さと十丁佐賀の庄領しやうりやう。人家百餘軒宿屋多く茶屋もあり。申ま刺さは大田  
平七へいしちといふつつきて宿やど。けけは温泉おんせんあり。町屋まちやの南みなみの川がはといふ川の  
中なかより湯ゆ涌も出で。湯ゆ槽せうまま七しちあり。十文湯じゅうもんゆ。又また湯ゆ三さん。湯ゆ二に  
あり。湯ゆ槽せうまま。湯ゆ口水くわいすいは左右さゆうふふせりて流ながる。人の好このみ流ながりて  
加減かげんをとり。或あるハ熱あつを好このめる。湯ゆ口くちは近ちかく居いぬることを好このめる。ハ口くちは近ちかく  
居いて流ながす。効能きうのうハ腰痛こしを愈いす。第一だいいちとして。申まふも万まづふふ  
といふ。又またけ地ちの名なをとりて煎茶せんの葉はといふ家いへ多おほし。さて此この  
地ちは入いりより農人いんげんの用もちる鉄てつのてははままあり



長一尺六寸 竹筒二寸五分 竹  
柄の横好圓のこや

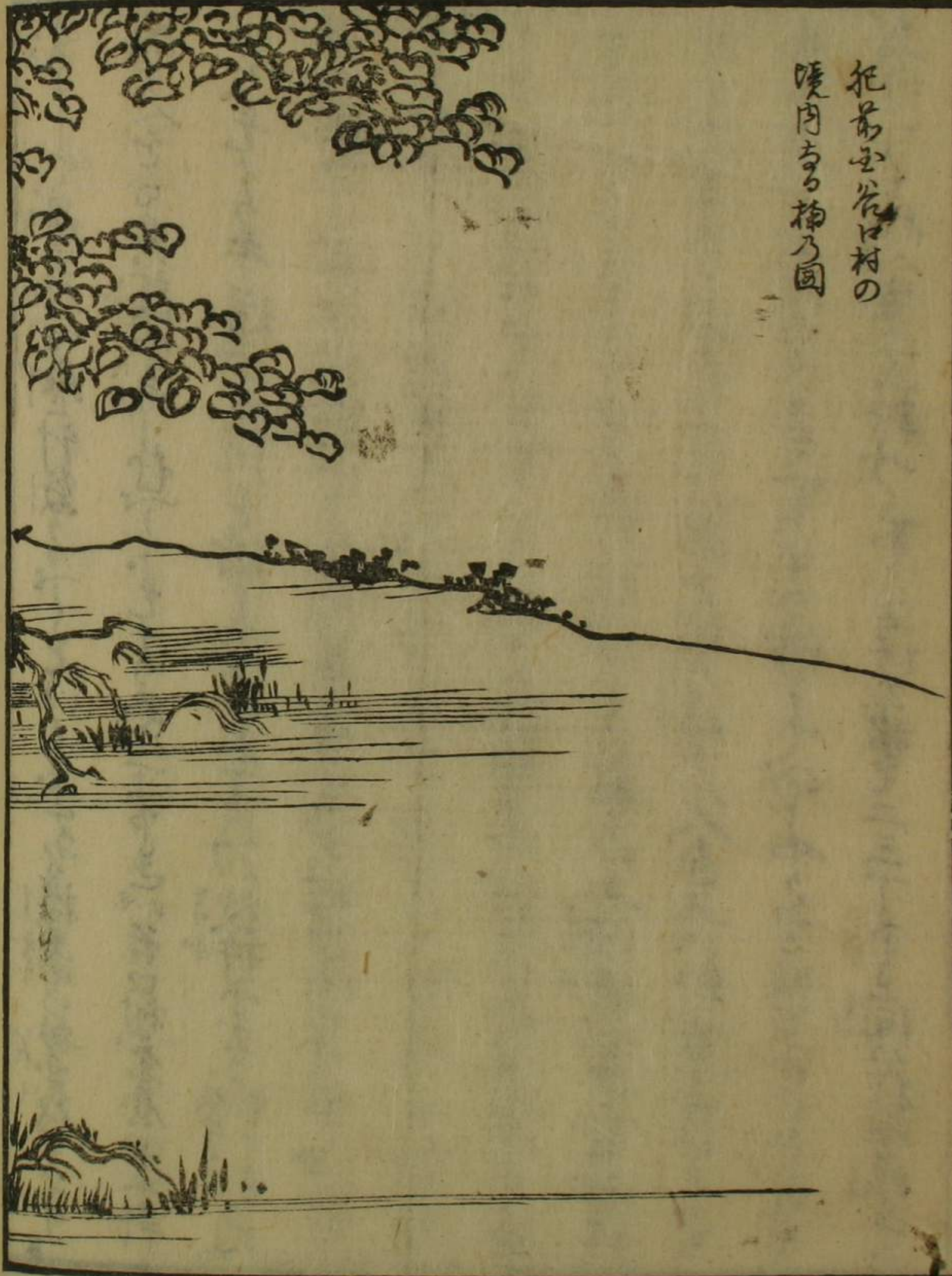
お打も打たるゝ暮方より雨あり出ぬ

○五月朔卯刻より立出雨ありてよび一丁計りて聊ある坂さつ  
越さば下不動山村。是より平道十丁餘のいば小川あり。飛石と踏て渡る。  
是より不動山を仰ぐ丁登れは唐茶と茶葉多き立並ぶ。け山の名物と  
いふなり。又十丁程走まれば依坂峠に至る。七八丁坂を下れば番町まで。従来  
人の切子を改む番町と出まば農家十軒計あり。依坂村のまがて  
山より又下れば北の境まで。お八佐が飯南ハ大村のまがて。セツと  
丁はバ新宿人お十軒計茶屋あり。是より志づー下りて又十丁  
とまは楠坂とて大なる楠あり。本際大穴の所のりのでまれば中ハ

空より一疊席四疊計敷らるべく。見ゆるよふある枝葉の繁茂せるなり。  
敷百人をもの其蔭ふまゝむびー。是より又六丁下まれば若江村茶屋四五軒  
あり。是より平道おて小川を渡りて十丁下れば彼峠おま。峠の  
海の湊あり。お中五軒あり。宿屋茶屋あり。大村の及の庄のいけ所  
より時津よりお渡渡せられ。毛崎と十里あり。いよふまて。さ。海  
して。出口小川のつらとわら。より渡りて。海邊を流る。山の尾より出  
たるをより下りて。半里計り。バ干と。村より。漁浦。お二百軒計  
あり。茶屋あり。又下れば。瀬戸村。宿屋。お五。六軒。商。おあり。ま。て。も  
茶屋あり。小川のつらをかち。より。渡り。て。の。ど。も。ある。坂。と。十。丁。計。登。れ。を  
えのく。村人家二三軒づ。取。こ。よ。あり。坂。を。二。三。丁。下。る。間。ハ。程。回。折。ま。て



托寄寺谷口村の  
暖内寺の挿乃圖



西へ東へ坂の中程小川のあるところより降りぬがくて山をまき下り  
して小川をさうり文をまき下りする坂中に人家三軒あり是れ松原の  
くく内ありといふ是より續き下りて十里ふりば松原の宿あり  
至る彼岸より是れ大村の宿あり人家百軒計多く、漁者又ハ鍛工カチヤ  
多く、茶屋商ありすく宿あり。同屋の邊で宿をするが一軒ある  
のこけりを出て平尾十三丁よりバ福志村農家三十軒計あり  
茶屋あり。村中より小川あり飛石とほいしと流る。十丁降りば小川路。  
人家三十軒計酒屋茶屋あり。と道より左傍の並木松杉を種へ  
植り。二十丁降りばやうく入る。十丁降りてさうり町あり。町中より  
細き溝あり。その邊より橋を架すと植並ぶ。り。中程小川あり。大木の

松あり。かくて町と離れく。又松杉の並木あり。平尾を十丁降りば  
くひで川村より十丁計の町あり。村の出口より小川あり。飛石とつらひ流る。川を  
渡りて大村あり。松原より大村伝濃者屋二万七乃は城下之城ハ町あり  
南の方あり。町と通る。十丁計入口出口ハ草ぶささ多し。道でハ中程  
の家居ハまろく狭くし。すくけ及の虫釘ハ小ハ疱瘡を種ハ種  
て煩ハむ。これハ人の面ハ麻子あり。うろく。列ハ城下城内のぬえをゆく  
肌理細緻あり。何れも養人の風あり。かくて町と離れて小坂をまき  
下りて十里ふりば茶屋あり。二十丁降りば田村。けり。大村より此  
番あり。村の出口小川の河をせり。より流る。十里ふりば田村。茶屋  
十軒計あり。坂をまき。田村。いあり。赤土地をくる。二十丁計



坂を下まば、領地境の表東ハ佐賀領、西ハ大村領とあり。又四丁凡ハ  
佐賀より、番町あり、半里餘り凡ハ、茶昌の宿、大村より佐賀の表、荒  
の領地、町乃長、三丁計、皆農家也。茶屋商家、僅ハ二三軒、  
さず、宿屋、いふも定まりて、あらず。同座、は、宿を求め、山口  
半次郎と、いふ宿あり。

○二日、陰和刺、さふ、立、出、る、ハ、赤、古、き、行、り、ま、、ふ、、お、、お、、い、、づ、、く、、乃、、坂、  
あり、二里計、り、、と、、見、、津、、村、、と、、あ、、る、、人、、家、、三、、軒、、茶、、屋、、有、、り、、是、、乃、、山、、を、  
登、り、り、、し、、て、、小、、坂、、を、、登、、つ、、と、、越、、く、、又、、一、、里、、凡、、ハ、、九、、山、、村、、人、、家、、二、、軒、、計、、茶、、屋、  
あり、又十町計、り、、凡、、ハ、、九、、山、、村、、に、、お、、よ、、郡、、境、、の、、表、、一、、南、、へ、、乃、、來、、郡、、水、、は、  
彼、村、、と、、あり、、時、、を、、り、、て、、十、、丁、、計、、凡、、ハ、、領、、地、、境、、の、、表、、東、、ハ、、佐、、賀、、領、、西、

公儀、出、、代、、官、、を、、本、、作、、を、、與、、へ、、支、、配、、を、、有、、り、、又、、十、、丁、、計、、凡、、ハ、、古、、賀、、村、、に、、お、  
二三軒、づ、、、、亦、、は、、あり、、茶、、屋、、一、、軒、、茶、、屋、、棚、、の、、足、、事、、は、、吸、、垂、、たる、、が、、あ、、る、、さ、、ふ、、さ、  
り、て、、志、、ぞ、、り、、休、、ま、、が、、う、、玩、、賞、、し、、て、、立、、出、、て、、小、、川、、を、、わ、、り、、渡、  
は、古、、賀、、町、、人、、家、、三、、軒、、茶、、屋、、商、、家、、あり、、町、、の、、出、、口、、ハ、、又、、小、、川、、の、、表、、  
古、橋、、より、、さ、、り、、て、、十、、丁、、計、、凡、、ハ、、楠、、川、、と、、い、、ふ、、川、、あり、、わ、、り、、渡、、は、、  
茶、屋、、二、、三、、軒、、あり、、又、、十、、町、、計、、凡、、ハ、、小、、川、、の、、表、、を、、古、、橋、、より、、渡、、れ、、ハ、、夫、、と、  
村、に、、至、、す、、茶、、昌、、の、、人、、家、、百、、五、、軒、、計、、茶、、屋、、宿、、屋、、あり、、領、、主、、ハ、、茶、、昌、、の、  
同、一、、と、、刺、、以、、京、、宿、、茶、、屋、、市、、を、、つ、、い、、ふ、、が、、ま、、に、、入、、り、、是、、時、、の、、宿、、お、、る、、事、  
定、め、、ん、、と、、花、、勝、、を、、遣、、て、、酒、、を、、得、、つ、、休、、息、、し、、居、、ま、、し、、酒、、飯、、を、、用、、ん、  
と、く、、吸、、抽、、を、、逃、、れ、、ハ、、八、、寸、、計、、の、、鱒、、を、、煮、、扱、、り、、て、、平、、四、、寸、、盛、、て、、出、、せ、、り、

早長崎より近つたまき料理のさまも異國より一やと愛極あり  
りて笑ひあがりてに飲食して主をよめてけさのり何と  
同合せざる一七休居まりかして龍脚も帰る来り旅宿のりも定  
ぬま申刺さるま出所の出口は佐賀より付まら番河ありて住  
来の人乃切手を改むる所とて凡先より十字計の地境  
の印南は佐賀領おは清公領ありなり二丁計坂をせま六腹  
切坂の跡三丁計下ま日見村夫より二里公儀の由領して農家  
十軒あり村あり所之町の中程ありて石橋をせり是より  
磴道いざんを十丁計せま巴川内村人家十軒計のり茶屋あり坂を下り  
小川とありよりれば坂下村是も人家十軒計のり茶屋一二軒

あり是より石とありらると五丁計登れば坂路は後くありぬ又  
十丁下登ま巴道傍ふま来先生の舊塚といふあり石碑の形も印  
の如く是より二尺六寸計の獅子の印紐を法をく下ハ一尺四寸長  
二尺計の石面ふま来先生舊塚といふ字も書

若らもまきりる茶一花すき 去来

とありこのま来先生は此國乃学問所の学以向井氏の男なり  
りるが俳人ありてり所歴遊してありと通里親族を訪らひて  
ま出る時けまよれて別の自こといわがくて又五丁計せま巴  
まき茶屋に軒ありてり所より休る小間小日没果ぬ是より  
磴道いざんを下る事十丁計ありて本河内村に至る人家少くありあり



肥前国  
東河内村  
谷川  
夜景之  
圖



よき川ありけきより先二十町行の川岸も景多しゆもを  
崇まらに敷百万の景といふ事たえず風を乱る柳葉の光ありが  
ごとく木よりしていよ濃一園とあるも何れも同じきありけき  
れらふ

旅こもろきしすれく夏むのきく川も  
まやまうつかかはやぶふ日られそくたどりくゆらふ景  
ふく皆人敷を結られ刺たる月代の光とて星の影も  
めくハ景もまたぐやもどいハ世の男

凡政競ふ事り群衆かく仕りいりるんやぐりも  
合ていりれしとて六丁行ハ細の境并に橋結雨ありとの

下よ一池川といふ川なる橋をうらると渡りて二三町行ハ長崎乃  
入口日合より長崎入口は六丁とて橋る場にて村をくれば町それあり  
門のありふ入まハ長崎の町中れをよ小石多し切るを  
くらおもあると門ふ今より六七丁ありて坂屋丁田舎をねまつ  
といふが方よ成刺とよつとて宿するにけ地は滞留の月乃宿所ふ  
定めら家し主の名は平次といふあれで妻女の名を以て称する  
ありけかの息男彼れ妻ハ旅行しけかかよけすは義理  
ふく異國と通商の官地あるおふ旅人を逗留せしむるも  
みくも後後密あり宿まより町のとあり  
床の切もとておせば下宿人ありて宿まは旅ありて連く旅人

あり役場へ出宿をすまふを以てやていよく何國の何某の付  
当北へ是越の私にお何くの極といふお着仕の付滞留を役所  
よりといふ趣をすまひけて旅人役旅宿を對して國元のるは又  
用事の趣を細よる問て詔りおま体を見定めたるより日限を  
去渡すお物のために来る者より百日と限る用事より来る  
来るも親類と訪ひて来るも日限皆同し。商賣はよふ来れるは百  
二十日。唐紅毛の入れ商賣は来るは百二十日。藝は稽古又は奉公つとめ  
の為より一時は五ヶ月と限りとする。我軍は用事より来る  
来る者のよりと通せしむ。

筑紫紀行巻五終

